

水のように 透き通る美しさ

今回は長崎でもおなじみのアオリイカです。山口敦子教授に解説していただきます。

「アオリイカは、頭足綱ツツイカ目ヤリイカ科に属するイカで、日本の沿岸各地をはじめ、世界の暖かい海に広く分布しています。イカの中でも大型になる種類で、大きいものは三キログラム以上に成長することが知られています。泳ぐ姿は水のように透き通っていることから、長崎ではミズイカと呼ばれます。」

アオリイカ属を意味する学名 *Sepioteuthis* とは、ラテン語の *Sepio* (コウイカの、セピア色の) と *teuthis* (イカ) に由来します。「セピア色」をご存じですかね。日本では、明治や大正時代に撮影された写真が劣化して色あせたレトロな色のイメージがあるものの、はっきりしません。セピア色とは、実はイカ墨のこと。古来の日本でももっぱら墨を使って文字を書いていましたが、ヨーロッパでは古代ローマの時代にはすでにイカ墨で作られたインクが使われていました。イカ墨インクは時間が経つと茶褐色のセピア色に変化します。モーツアルトやベートーベンもイカ墨インクで楽譜を書いていたのでそうです。はるか昔に書か

れたセピア色の文字は柔らかくて優しく趣があり、それでいて重い。歴史に思いを巡らせずにはいられない、すてきな色です」。

自由自在に 体色を変化させる

「アオリイカは水中では透明になったり褐色になったり、状況に応じて変幻自在に体色を変化させます。色素と呼ばれる細胞の大きさを変化させることで、さまざまな色彩や模様が変わるのです。そして何といっても目の際にあるエメラルドグリーン色のアイシャドーの美しさが、アオリイカの魅力の一つです。グラバー図譜にはそうした細胞の一つ一つまで、また色彩までも正確に描かれています。アオリイカの鮮度は落ちやすく、ことに色彩を失うのは魚類以上に速いので、この素晴らしい図を仕上げるにはどれほどの苦労があったことでしょう」。

描写は鮮度との闘いなのですね。「アオリイカは成長すると、外見で雄か雌かを区別できます。図譜の外装膜(胴体の部分)の斑紋をご覧ください。斑紋が線状であれば雄、水玉のような卵形であれば雌です。どうやら図譜のモデルは雄だったようです。雄は成熟すると、一本の腕の先端部が肉状の突起に変形し、交

接腕となります。それを使い、精子が詰め込まれたカプセルを雌に受け渡すのです。春から夏にかけて、産卵期を迎えます。一つの卵嚢には平均五個の比較的大きな楕円の卵(長さ五〜六ミリ)が入っており、それが数百と連なった卵嚢塊を海藻に産み付けます。しかし、近年では藻場の減少が深刻です。そこで、長崎県の各地ではアオリイカ資源を増やすため、毎年産卵期前になるとロープでくっつけた柴を海中に投入して人工産卵床を提供しています。産卵からひと月ほど経過すると、五ミリ程度の仔イカが孵出します。これがまたかわいらしい! アオリイカの成長は非常に良く、生まれた翌年には成熟し、産卵後にはわずか一年ほどの寿命を終えると考えられています」。

イカ墨を使った

郷土料理

「くろみあえ」

「アオリイカは超高級魚。イカの中でも最も美味とされますが、九州では呼子のイカでおなじみのケンサキイカと人気を二分していますね。大型で肉厚、水分が多く、柔らかな身でねっとりしていて甘みがあり、刺身で食べれば言うことなしです。くろみあえ(くろまえ)とは秋の



解説 山口敦子

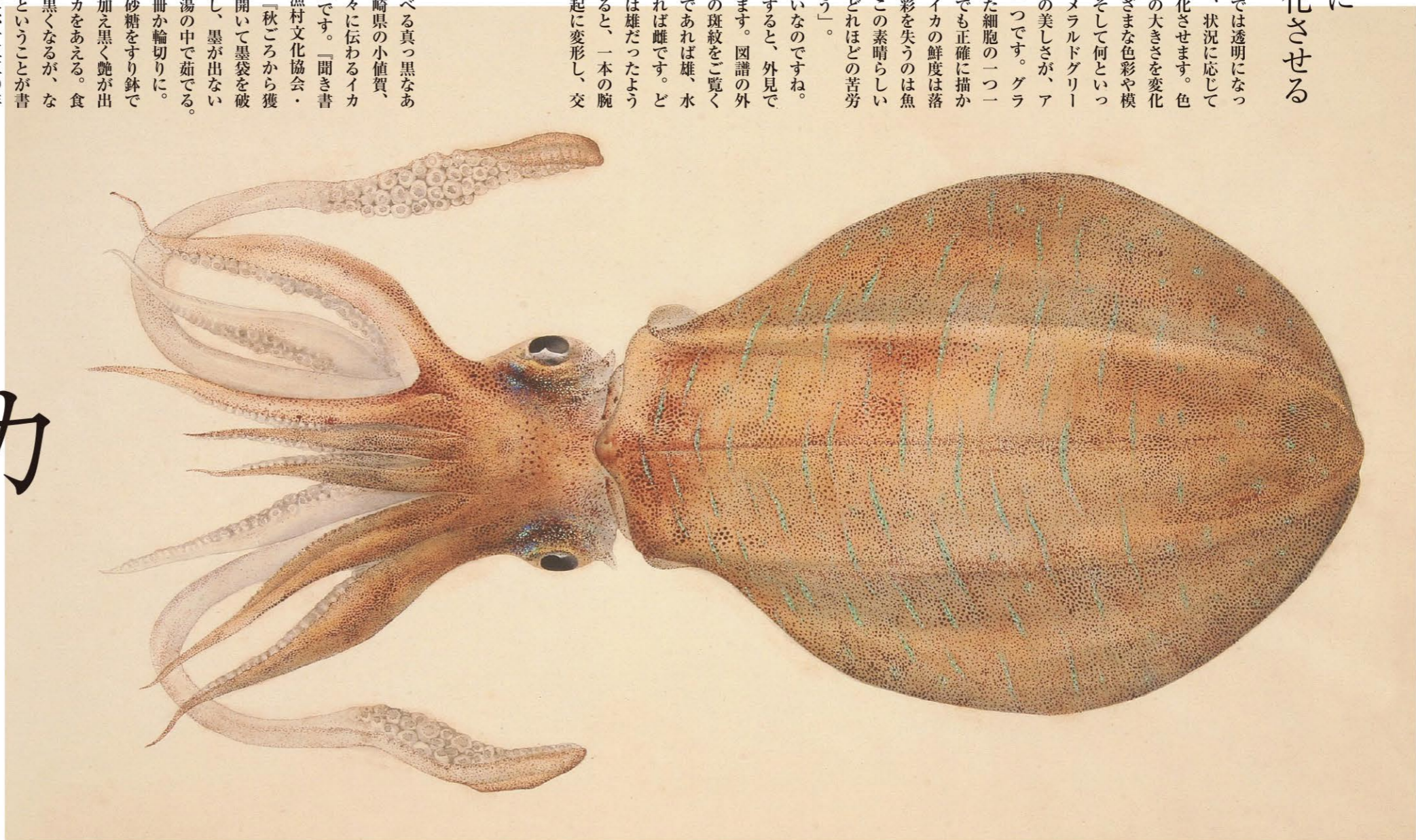
長崎大学水産・環境科学総合研究科教授

Yamaguchi Atsuko

東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。2000年から長崎大学。専門はエイやサメなど魚類学と水産資源学の研究。主な著書に「干潟の海に生きる魚たち—有明海の豊かさの危機」(東海大学出版)など。

おくんちのころに食べる真っ黒なあえものことで、長崎県の小値賀、平戸、大島などの島々に伝わるイカ墨を使った郷土料理です。「聞き書長崎の食事」(農山漁村文化協会・一九八五年)には、「秋ごろから獲れたアオリイカを開いて墨袋を破らないように取り出し、墨が出ないように糸でくくって湯の中で茹でる。身はさつと茹でて短冊か輪切りに。胡椒と胡麻、味噌や砂糖をすり鉢ですり、茹でた墨袋を加え黒く艶が出るまで更にすってイカをあえる。食べる口まわりが黒くなるが、なかなか風味がある」ということが書かれています。これは、一五五〇年に平戸にやってきたフランシスコ・ザビエルが、キリスト教の布教活動を行う中で日本人に伝授したものと伝えられています。その後、イカ墨料理のおいしさが広まり、定着したようです。イカ墨はインクや絵の具の他にも独特の食文化を彩る食材や薬としての効能もあり、万能なですね」。

イカ墨とザビエルの深い関係は意外なお話でした。



Glover Atlas アオリイカ

Sepioteuthis lessoniana

画家 長谷川雪香

グラバー図譜
日本西部及び南部魚類図譜

Fishes of Southern
& Western Japan

長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。

<http://oldphoto.lib.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>